

Good Job
グッドジョブ!!
現場で働くプロに聞く!!



自動車整備士

Auto mechanic

名前
く どう けんいち
工藤 健一 さん (畑中)

会社名
(株)星山商店 営繕部

職歴
9年

地方に住む人たちにとって通勤、買い物、レジャー、どれをとっても自動車を扱う場合が多い。大切な交通手段の自動車は今や「一家に一台」ではなく「一人に一台」の時代に。単に交通手段だけでなく、車を見ることや、乗ることが趣味の人もいる。工藤健一さんはたくさんの方が大切にしている車を修理する整備士。今回は自動車整備士について伺った。

車への興味から整備士に

「小さい頃、親父の仕事場によく行ってたんです。今の私と同じ自動車整備士なんです。仕事をすると親父の背中を見て育ったことが大きいと思います」

「車社会の現代では『車とともに育った』といっても全然珍しくないが、工藤さんの場合は、パーツやエンジンなど普段目につかない物を、整備士である父の背中越しに見ていたという。」

「高校生の時、ガソリンスタンドでアルバイトをしていました。そこで色々な車種のオイル交換や洗車をしていました。車が良くなると喜んでもらえることがうれしかったですね。もともと車に興味があったんですが、その経験がもともと自動車整備士を目指しました」
そして高校卒業後、専門

学校で2年間、整備士としての技術・技能を磨き、国家資格の「二級ガソリン自動車整備士」、「二級ジーゼル自動車整備士」を取得。晴れて自動車整備士としての一歩を踏み出した。

「接客」も「勉強」も必要

音や目測で車の故障箇所を探し、黙々と車を修理するイメージがある整備士だが、場合によっては「接客のスキルも必要」と工藤さん。

「使う部品や修理の仕方まで修理代が大きく変わります。持ち主が納得する修理をしなければいけません」

現在工藤さんが勤める会社では特殊な大型車を扱っている。中でもパンク修理が多く、日に何度もタイヤ交換を行っているそうだ。

「うちで扱っているタイヤで、大きいものと直径1m位になります。一本(交換)だと10分くらいですね」

工藤さんはさらりと話したが、巨大なタイヤを10分足らずで交換することは素人には難しい。その作業をF1のピットインを彷彿させる動きでこなすという。

「車両や重機が新しくなると整備の仕方がまったく違うものになります。その度にメーカーさんや説明書とにらめっこです(笑)。勉強は苦手ですけど、大切な車のために日々努力しています」



▶(左写真)トラックのキャビン上げる工藤さん。オイル交換やベルト調整など、主なメンテナンスや点検を行う。
▶(右写真)地元消防団にも所属している。訓練にも積極的に参加し、本年開催された消防操法大会にも出場し、郡大会まで勝ち進んだ。ゼッケン番号2番が工藤さん。